



クローズアップ
CLOSE UP

新緑の中で芸術散歩

粕川地区全体を美術館に見立て、中之沢美術館をメインに17会場で開催された粕川アートフェスティバル。主催者の三谷さんは、「趣味の作品でも、見てもらうことで創作意欲が沸くようです」と、19回目となる同フェスに手ごたえを感じていました。



まちの魅力創造を語る

本市の魅力向上のため官民協働で進めている前橋ビジョン策定プロジェクト。この関係者などによる米国視察報告会とトークセッションを5月23日に開催。出席者は、デザインを生かしたまちづくりや革新が起こりやすい環境などについて意見を交わしました。



photo:Kigure Shinya



弦楽の重奏の調べ響く

5月29日に前橋テルサで、「すてきな子どもたちによる弦楽アンサンブルすみれ演奏会」が開催されました。駆け付けた山本市長は「練習を重ねた子どもたちのアンサンブルをお楽しみください」とあいさつ。美しい弦楽器の音色が会場を包み込みました。

いきいき
まえばし人

陳翔さん・27歳
ワカモノ記者
六供町

独自の視点で前橋に恩返しを



中国天津市出身の陳さん。最年長のワカモノ記者だ。元々日本語に興味があり、来日を決意。親戚が本市に住んでいたことが縁で平成20年に来橋した。

「初めて前橋に来たときは日本語もよく分からず不安でしたが、市役所の窓口で対応してくれた人や市民の皆さんにとっても親切にしてもらったのが印象に残っています」

来日してすぐは日本語学校に通った。言葉の壁も大きかったが、生活していく上でのルールにも戸惑ったという。

「曜日ごとに出せるごみが決まっていることに驚きました。しかも、みんなきちんとしていました」

「せっかく日本に来たから環境を学びたい」と、前橋工科大に入学。現在は同大学院の博士課程に在籍している。

「経済が発展するに連れて、中国の環境問題は深刻化しています。学んだことを生かして、中国や今お世話になっている前橋に恩返しができる」

ワカモノ記者に応募したのも、今住んでいる前橋に恩返しをしたかったからという。

「意外な視点で見つけた前橋を、皆さんに伝えていきたいです」

陳さんが外国人の視点で切り取る前橋の今。本紙の見所がまた一つ増えそうだ。



レファレンスは2階



人と本が出会う場所
図書館は知の回廊です

昨年度に新人職員として図書館に配属されました。施設管理が主な仕事ですが、本年度からは皆さんの調べごとを手伝うレファレンス担当の一員にも加わっています。窓口は2階。ちょっとした疑問を解決したい人から専門的な調



市立図書館
平林 花和子

前橋ブック
ストリート
MAEBASHI BOOK STREET

今年で開館100周年を迎えた前橋市立図書館の今をお伝えます。

Vol.02

査をしている人まで、幅広い層が利用しています。

経験が浅いので、まずは利用者の方の声をしっかりと聞くよう心掛けていきます。先輩の対応を見て気付くことは、適切な質問をし、短い時間で要点を聞き出していること。大切なのはコミュニケーション。見習っていききたいです。必要な本を必要な人に届けることは、とても意義ある仕事。やりがいを感じています。

旅行が好きなのは、旅先の図書館へ行くことも楽しみみのひとつです。先日は岐阜市立図書館へ行きましたが、利用者が多く、活気があるのが印象的でした。これからは多くの図書館へ行き、私たちの図書館の参考にしたいです。

次回のコラムは、こども図書館の吉田裕介が届けます。



視聴覚室